

報徳サミットに向けて作品を寄贈 タイプアートの渡辺良子さん

タイプライターを使って絵を描くタイプアート作家の渡辺良子さん（大町）が、市に作品を寄贈しました。生後まもなく脳性小児麻痺にかり、車椅子での生活を続けている渡辺さん。足の指を使ってタイプライターのキーをたたき、文字を重ねることによって作品を制作しています。寄贈作品は、薪を背負って本を読む二宮尊徳（金次郎）像を描いたもの。来年10月、尊徳ゆかりの全国23自治体に参加し、筑西市で開催される『第13回全国報徳サミット』にちなんで制作されました。



子どもたちに蹴る楽しみを

JFAキッズ サッカーフェスティバル

小雨となった11月11日、協和サッカー場で、JFAキッズサッカーフェスティバルを開催。これは、県サッカー協会がワールドカップ日韓大会開催を記念し、大会翌年の平成15年から行っているもので、会場では2度目の実施。子どもたちにボールを蹴る楽しみを味わってもらい、幼年からのサッカーの普及を図ることが目的です。この日は市内のサッカー少年団など7チームを含め、埼玉県や県内各地から合計20チーム、約240人が参加。ミニゲームを行いサッカーを楽しみました。



スペシャルオリンピックスで金メダル 協和養護学校の関口真也くん

11月3日から5日まで熊本県で開かれた知的障害者のスポーツの祭典『第4回スペシャルオリンピックス日本（SON）夏季ナショナルゲーム』に、茨城県立協和養護学校中学校部1年の関口真也くん（新治）が、茨城選手団の一員として出場。陸上男子4×100メートルリレーで金メダル、100メートル走で銀メダルに輝きました。走ることが好きで、毎日2時間の練習をこなしてきた関口くん。「大会に出られて楽しかったです。金メダルをもらえてうれいす」と語ってくれました。



筑西あらかると

暮らしを考え まちを知りたい みんなの広場



おでかけガイド

詳細は変更になる場合があります。事前に確認してお出かけください。

4/8(日)まで 川上澄生と物語～南蛮の系譜をたどって～

鹿沼市立川上澄生美術館 [栃木県鹿沼市TEL 0289-62-8272] 午前9時～午後5時 一般 300円
高校・大学生 200円 小中学生 100円 月曜定休



1/5(金) ニュー・イヤール・コンサート 2007

水戸芸術館 [水戸市TEL 029-231-8000 月曜休]
開場5時30分 開演午後6時 S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円 世界に、いくつもの花。



12/2(土)～12/21(日) 村山密展 ～パリを描いて半世紀～

茨城県近代美術館 [水戸市TEL 029-243-5111] 午前9時30分～午後5時 一般 830円 高校・大学生 580円 潮来市出身の村山密の足跡を振り返る。



1/20(土)～3/21(水) 景德鎮千年展 ～皇帝の器から毛沢東の食器まで～

茨城県陶芸美術館 [笠間市TEL 0296-70-0011] 午前9時30分～午後5時 一般 700円 高校・大学生 500円 小中学生 250円 約50点を紹介



ぼくたち・わたしたち 1歳になりました

わが家のアイドル



竹本 拓真くん
12月4日生(玉戸)



西澤 桜胡ちゃん
12月4日生(下岡崎)



渡邊 陸人くん
12月4日生(藤ヶ谷)



飯野 瑠斗くん
12月6日生(下川島)



安原 恵夢樹ちゃん
12月6日生(門井)



石塚 希夢奈ちゃん
12月7日生(海老ヶ島)



永盛 心花ちゃん
12月8日生(泉町)



西村 歩夢くん
12月8日生(村田)



小島 彩愛ちゃん
12月10日生(桑山)



金澤 琉生くん
12月10日生(あどり町)



坂入 柊生くん
12月12日生(榎生)



飯島 諒太くん
12月13日生(猫島)



菅原 乙海ちゃん
12月13日生(玉戸)



倉持 郁吹くん
12月14日生(船玉)



高橋 涼太郎くん
12月14日生(二木成)



新保 歩未ちゃん
12月16日生(門井)



榎山 裕梨ちゃん
12月16日生(横島)



直井 歩夢くん
12月20日生(幸町)



中島 太一くん
12月20日生(松原)



大浦 史湊くん
12月21日生(海老ヶ島)



舘野 亜美ちゃん
12月21日生(井出峯)



新井 聖斗くん
12月22日生(布川)



内田 妃七ちゃん
12月22日生(落合)



杉山 奈優ちゃん
12月23日生(玉戸)



池羽 歩楓ちゃん
12月25日生(下川島)



遠藤 叶美ちゃん
12月25日生(岡芹)



鉄炮 塚翔琉くん
12月26日生(飯島)



中尾 心苺ちゃん
12月28日生(市野辺)



藤田 真也くん
12月28日生(玉戸)



奥原 亜沙美ちゃん
12月30日生(二木成)



熊谷 羽音ちゃん
12月30日生(下川島)

平成18年2月生まれのお子さんの写真を募集しています。
写真裏面に①お子さんの氏名・ふりがな・生年月日・性別 ②保護者氏名・郵便番号・住所・電話番号を明記し、12月28日(木)までに市広報聴課へ。応募者多数の場合は抽選とします。



上野小学校

児童数175人



せや れいな
瀬谷 玲奈

私の将来の夢は看護婦になること。筑西市にある病院の看護婦さんになって、病気の人を看病してあげたいです。



いしじま なるみ
石島 成美

私は、将来パティシエになりたい。そして筑西市のみなさんにおいておいしいケーキを食べさせてあげたいです。



あかぎ なつき
赤城 なつき

私は、将来保育士になりたい。筑西市の子どもたちがよい子になるようにがんばりたいです。



あらい ひでとし
新井 秀利

ぼくは、プロ野球の井川選手が大好き。筑西市の野球をもっと知ってもらえたらいいなと思います。



あかぎ つばさ
赤城 都羽沙

ぼくは、将来ヤンキースの松井選手のような大リーガーになりたいです。スポーツの盛んな筑西市になるといいな。



はやせ しおり
早瀬 汐莉

私は将来、CMを作る仕事をしたいです。笑顔いっぱい筑西市を全国で紹介したいです。



いわたま ゆこ
岩本 万由子

私は英語がペラペラ話せるテニスプレーヤーになりたいです。筑西市を外国人といっしょに笑顔で暮らせるまちにしたい。



おおしま ひろき
大島 宏基

ぼくの夢は、サッカーのワールドカップに出場することです。筑西市は和やかで、笑い声のあるまちにしたいです。



せんば としあき
仙波 利章

ぼくの夢は、発明家になること。いろいろなものを発明して、筑西市をよいまちにしたいと思います。



にへい はるき
仁平 晴喜

ぼくの夢は、プロキックボクサーになること。将来、筑西市はみんながたのしく明るいまちになってほしいです。

河間小学校

児童数160人

子どもたちの環境教育の時間をもっと増やして

市内のスーパーには、レジ袋を有料化しているところがあります。子どもたちと一緒に買い物でしたが、とても良い取り組みだと感じました。

環境問題は、大きなテーマのようだけれども、私たちの日ごろの小さな取り組みが大切だと思っています。

そして次世代を担う子どもたちへの教育がとても大切だと思います。ゴミの減量化、それには無駄なものを購入しない。過剰な包装を断る。使えるものはもう一度使う努力をする。このような事を小さな頃から教えれば、自然と身に付くと思います。

最近学校では、給食の牛乳パックのリサイクルに取り組んでいると聞きました。家庭でも教えることはできますが、学校で友達みんなと取り組むのとはまた違います。ぜひ、幼稚園、小学校などで環境問題に取り組む時間をもっと増やしてもらいたいと思います。
(関城地区・主婦)



日ごろの暮らしの中で思っていることを投稿してください。匿名可。広報広聴課まで

おたより

スナッパ

めざせディズニーリゾート 関城商工まつり ウルトラクイズ

関城商工まつりの催しのひとつとして、関城商工会青年部が行ったウルトラクイズ。子どもから大人まで大勢の市民が、優勝賞品である東京ディズニーリゾートのチケット獲得をめざして参加しました。出場者が難問を解いたり、珍解答が飛び出すたびに、会場が大きな歓声で包まれました。



関城中学校出身の童謡歌手「坂入姉妹」
坂入恵美さん（左）
坂入真紀さん（右）

—— 小中学校は夢への土台づくり 今の時間を大切に生きて ——

「童謡との出会いは、両親からのリクエストでした。毎日、外国語でオペラの発声練習をしていたので、『たまには日本語の歌を聞かせてよ』って言われたんです。そして、ペアーノで開催されていた『由紀さおり・安田祥子さん姉妹』のコンサートに連れていってくれました。そこで聞いた美しい歌声と童謡のあたたかさに心を打たれ、涙が止まりませんでした。そして決心したんです。日本語の曲を歌おうと。」

明野公民館で開催された『筑西市教育の集い』の講師としてステージから語りかけるのは、関城西小学校そして、関城中学校出身の坂入恵美さん・真紀さん姉妹。

さん・真紀さん姉妹。共に東京音楽大学声楽科を卒業し、現在、全国各地で童謡コンサートを展開。日本の歌『童謡』を次世代に引き継ぐ新しい担い手として期待が寄せられています。

「私たちが今あるのは、中学校の吹奏楽部での厳しい練習おかげです。高校、大学、そして今でも、くじけそうになることがあります。でも、あの厳しい練習を乗り越えたのだからという強い自信が支えになっています。そして、夢をあきらめないこと。父から『人生の舞台は自分でつくりあげるもの』と言われ、夢を目標にかえて必死で頑張ってきました。小中学生のみならず、夢には努力の積み重ねが必要です。夢への第一歩は今できることを精一杯頑張ることです。美しい歌声とともに、後輩たちへエールを贈ってくれました。」



ぶらり 真岡鐵道の旅

益子駅 ②



C11325号 (C11型)

益子町は、国内屈指の焼物の町として有名ですが、焼物以外にも、歴史や豊かな自然に恵まれた町でもあります。

益子の歴史に触れる

益子町には、室町、鎌倉まで遡る貴重な文化財が数多く残されています。まず訪れたいのが、関東甲信越四大古塔のひとつとして知られている『西明寺の三重塔』。にぎやかな市街地を南に抜け、車で約5分、高館山の山腹にひっそりと佇む西明寺は、北関東の名刹です。長い石段を登っていくと明応元年（1492年）に建立されたという苔むした楼門（国指定重要文化財）が迎えてくれます。そのすぐ横に立つのが天文6年（1394年）に西明寺城主



西明寺 三重塔

益子家宗によって建立された三重塔（国指定重要文化財）です。長い歴史を感じさせる荘厳な作りに思わず息を飲むほどです。

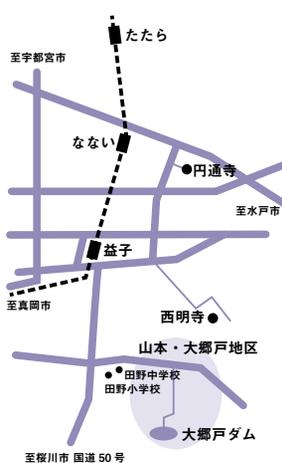
また、七井駅に程近い町北部には、応永9年（1402年）良榮上人によって開かれた円通寺があります。かつて、境内には、「金沢文庫」や「足利学校」と並ぶ「大沢文庫」という学問所が設けられていました。学生たちの生活する学寮は38棟もあったと言われ、多くの名僧を輩出したと言われています。表門（国指定重要文化財）から本堂、



大沢文庫の第1書庫
大沢文庫は8万坪に及ぶ広大な敷地に、常にも数百人の学生が学んだという。



円通寺表門 優美で精巧な作りは室町時代の代表的な建築様式です。



そして裏庭へと進んで行くと、赤く色づいた紅葉と多くの庭石を配した、美しい庭園を鑑賞することができました。

益子の自然を楽しむ

町全体がゆるやかな起伏の山々に囲まれた益子町には、美しい自然が多く残されています。その中でもおススメなのが、町の南部に位置する山本・大郷戸地区です。

はじめに訪れたのが、昭和62年に完成したという『大郷戸ダム』。ダムは、昔から水田の水不足に悩まされてきた住民の悲願だったそうです。ダムの水は、周辺の山々から湧き出る沢水が少しずつ流れ込んでくるものなので、冷たくてとてもきれいです。湖の周囲



大郷戸ダム 新緑や紅葉の絶好のスポットです。



ふれあい館『山郷乃めぐみ』 土日、祝日のみ営業。益子町山本松本入 3057-3 Tel 0285-72-9777

には遊歩道が整備されており、里の四季を感じながら散策が楽しめます。また、キャンプやバーベキューなども楽しめる親水公園も整備されました。湖のほとりに立って色づいた山々を眺めると、日常の喧嘩から離れ、とても落ちついた気持ちになりました。

また、この地区では、多くの文化財と恵まれた自然をいかした『ふれあいの郷事業』を展開しています。ダムに隣接する、ふれあい館『山郷乃めぐみ』を拠点に、都市部に住む人たちに農業体験や民泊など自然とふれあう機会を提供しています。

足を運ぶたびに新しい顔を発見できる益子町。筑西市からは、山をひとつ越えるだけ。ぜひ、休日にはご家族おそろいで出かけてみてはいかがでしょうか。

- 茂木
 - 天矢場
 - 笹原田
 - 市塙
 - 多田羅
 - 七井
 - ましこ 益子 Vol.8
 - 北山
 - 西田井
 - 北真岡
 - 真岡
 - 寺内
 - 久下田
 - ひぐち
 - 折本
 - 下館二高前
 - 下館
- はSL停車駅

■このコーナーを担当したのは、

いなば ひろし なかうえの
稲葉 寛さん (中上野)

清流とサケを通して『川をいかした地域づくり』を

小貝川や勤行川にたくさんさんのサケがあらわれ、話題になっています。生まれた川に戻る性質（回帰性）を持つサケ。勤行川上流でもNPO（特定非営利活動法人）が小規模な放流を行っています。鬼怒川で放流された稚魚が迷い込んだのではないかとわれています。その鬼怒川でサケの増殖事業に取り組み鬼怒小貝漁業協同組合取材しました。

サケがのぼる南限・鬼怒川

鬼怒川は、那珂川、久慈川とともに県のサケ増殖事業河川に指定されています。事業に取り組みするのは、市内女方おんなかたにある鬼怒小貝漁業協同組合（坂入浩組合長・組合員250人）。年によって数にばらつきはありますが、今年2、500尾を捕獲、60万尾の稚魚を放流する予定です。再捕率（4年前の放流数と捕らえた親魚数の対比）は確実に上昇し、平成元年の0・08%に対して平成14年には425倍の0・34%にまで増えています。

日本でのサケの人工孵化ふかは、明治7年に那珂川で試験的に行ったのが始まりとされています。稚魚は荒川、多摩川、相模川に放流されました。成魚で捕獲されたのは明治13年に1尾、同15年に1尾だけと記録されています。天然遡上の南限を変えようとした試みは成功しなかったようです。

荒川や多摩川からわずか数十キロ北の鬼怒川は『サケがのぼる川』の南限というのが定説で、非常に貴重な河川ということができます。筑西市で放流されたわずか数センチの稚

魚が、鬼怒川の匂いをうるこにしみ込ませながら数か月かけて南下、利根川を經由して太平洋へ出て、大海原を何万キロも回遊してから3〜5年後にふるさとの鬼怒川に戻る。その営みに、いとおしさを覚えないわけにはいきません。

鬼怒小貝漁協の取り組み

鬼怒川のサケの産院ともいえる鬼怒小貝漁協を訪ねました。鬼怒川の河川敷、国道50号にかかる橋を見上げる場所に事務所と孵化場があります。

今年は大水の影響で川床が乱れ、捕獲作業の開始は10月の下旬になりました。漁場では、立て網を『く』の字型に川幅一杯に張り、大型の金属製の『笠』にサケを追い込んで捕獲。数百メートル離れた孵化場で採卵・受精を行い、約2〜3か月かけて1グラムになるまで養育し、放流します。

戦後まもなく始まった孵化事業は今年で52年目。近年は、組合員の高齢化などの課題をかかえています。また、作業員は全員兼業のため、捕獲・採卵を行うのは、おも

に休日や夜間。水浸しの体に日光おろしの北風を受けながらの作業は、鬼怒川のサケへの思いが支えているようです。

漁協の仕事はサケの増殖ばかりではありません。川の水をきれいに保ち、色々な魚をどんどん増やして市民のレクリエーションの場を確保するという隠れた役割も担っています。私たちも川辺のゴミ拾いなどのイベントに積極的に参加し、鬼怒川の清流とサケを通じた『川をいかした地域づくり』に貢献したいものです。

